

	[10]
氏名	高谷 真城 <small>たかや まさき</small>
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学位記番号	経博第 17 号
学位授与の日付	2019 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	地域・都市問題に関する一考察 —地域産業振興・マンション建替え・買い物弱者問題に関して—
論文審査委員	主査教授 長久 良一 副査教授 良永 康平 副査教授 前川 聡子

論文内容の要旨

地域と都市における、過疎と地域振興、マンション建て替え、交通弱者の問題を扱っている。第 2 章では沖縄県竹富町の産業連関分析を行っている。竹富町は過疎化が進み産業振興が振るわない。竹富町の産業連関表を作り、以下を結論している。農業・対個人サービスの占める割合が大きく自給率が高い。産業同士の繋がりは弱く町外流出率が高い。これら産業の連関が経済波及効果を生み出す。第 3 章は山崎他「マンション建て替え決議についての理論と実証」（上智経済論集 2013）における数値例をモデル分析している。建て替え決議は区分所有者の一定割合以上の賛成で成立し、賛成者は反対者に補償金支払いの義務がある。これは建築区分所有法と同じ想定である。区分所有者は予想資産価値と補償金による費用便益を計算し票を入れる。投票結果はナッシュ均衡であり、均衡の特徴づけを行っている。第 4 章ではモールの立地問題を扱っている。住民は線分上の点に住み、幾人かの住民が集まりモールを建設する。モール建設費用と住民全体の交通費用の間にはトレードオフの関係がある。地区形成の均衡はコアであり、起こりうる地区形成を完全に分析している。

論文審査結果の要旨

2 章に関しては竹富町を例に、疲弊している経済の特徴を産業連関分析によって捉えた点に意義がある。17 部門の分類の細分化、移輸出率に関する沖縄県との同一仮説、石垣新空港による影響の分析など検討課題はあるが、研究の意義を損なうものではない。3 章に関しては社会的選択理論を都市問題に応用した点が貢献である。耐戦略性などの先行研究を加え論考すれば更に良い研究となろう。4 章は協力ゲームと都市経済学をかけた点が評価できる。ティブー均衡など類似した研究との比較検討作業が次の課題である。以上解決

すべき課題はあるが、産業連関分析・社会的選択理論・ゲーム理論を都市・地域問題に適用した意義は大きい。よって、本論文は博士論文として価値あるものとみとめる。